仏教に登場する様々な動物や神様

分類	名称	象徴・意味	立ち位置・役割	詳しい説明
動物	龍（りゅう）	仏法の守護、水の神 変化と流動性	仏法と信仰者を守護する存在（天龍八部衆）。雨や水を司り、寺院を火災から守る。	仏教伝来以前から水神として信仰され、仏教に取り入れられた。変幻自在な姿は悟りの境地や宇宙的な力を象徴し、本堂の天井画などに描かれることが多い。
動物	象（ぞう）	力強さ、知恵 穏やかさ、神聖さ	聖人の到来を告げる存在（白象）。普賢菩薩の乗り物として「行（実践）」と「慈悲」を象徴する。	インドで最も強く神聖な動物とされ、特に「六牙の白象」は六根清浄を意味する。文殊菩薩の乗る獅子と対で語られることが多い。
動物	麒麟（きりん）	天下泰平、仁（じん） 聖人の誕生	世の平和や徳のある聖人の出現を告げる瑞獣（四瑞）。慈悲深く温和な「仁獣」。	中国の伝説上の霊獣だが、仏教では吉祥のシンボルとして寺院の装飾に用いられる。争いを嫌い、生き物を傷つけない高潔な存在とされる。
動物	獅子（しし）	威厳、知恵 仏法の力	強い力で邪悪を退け、仏法を護る守護者。文殊菩薩の乗り物として「智慧」を象徴する。	「説法獅子吼（ししく）」という言葉があるように、百獣の王の雄叫びのような、真実を恐れず説く勇気ある説法を意味する。
動物	孔雀（くじゃく）	毒を食って益とする力 煩悩の消滅	人々の煩悩や災いの「毒」を消し去る。孔雀明王の乗り物。	毒蛇を食べる孔雀の性質を、煩悩という毒を打ち消す力になぞらえ、特に密教において重視される。
動物	鳳凰（ほうおう）	平和、吉兆 高貴さ	天下泰平やめでたい出来事のしるしとして現れる霊鳥（瑞鳥）。	中国思想由来の霊鳥であり、仏教では寺院の屋根や装飾に、吉祥のシンボルとして用いられる。

分類	名称	象徴・意味	立ち位置・役割	詳しい説明
空想	迦陵頻伽（かりょうびんが）	極楽浄土の清らかさ 美声	極楽浄土に住む霊鳥。その美しい声は教えを悟らせ、仏を供養する。	上半身は人で下半身は鳥という姿で描かれることが多い。天界の音楽家として、仏の教え（法）の素晴らしさを音で表す存在。
空想	餓鬼（がき）	貪りの結果 煩悩の恐ろしさ	六道の一つ「餓鬼道」に落ちた衆生。飢えと渇きに苦しむ姿は煩悩の恐ろしさを象徴する。	喉が細く腹が膨れた姿で表され、水や食べ物を口にしようとすると炎に変わってしまうとされる。「施餓鬼」法要は、慈悲の心を育むための重要な修行である。
空想	仁王（におう）	悪を打ち砕く力 仏法を護る怒り	寺院の門に立つ仏法の守護神（金剛力士）。阿形・吽形として宇宙の真理を表現する。	本来は一本の金剛杵（こんごうしょ）を持つ守護神だが、日本では一対の像として寺の入口（山門や仁王門）に安置されることが通例。
空想	迦楼羅（かるら）	煩悩を焼き尽くす力 清浄な心	天龍八部衆の一員。毒蛇（煩悩）を喰らい、仏法を護る役割を持つ。	インド神話のガルダが起源。顔は鳥、体は人間の姿で表現されることもあり、特に炎の光背を持つことが多い。
空想	緊那羅（きんなら）	音楽の力 歌舞	天龍八部衆の一員。仏の供養のために常に美しい音楽を奏でる神。	「人か人でないか」という意味を持ち、音楽の神として、仏教の教えを広める手段としての芸術の重要性を象徴する。